

## 第二章 生物

### 第一節 植物

#### 一 植物の概況

勝山町には北部、西部、南部の三方に山地があり、東部のみが平野となつて開けている。北部山地は我が国有数のカルスト台地である平尾台の一角であり、また、北九州市小倉南区、行橋市及び田川郡香春町と境している。この地域には石灰岩との結びつきの強い好石灰植物や岩角地植物が生育しており、その最重要部分は平尾台の南端にあたる竜ヶ鼻である。しかし、カルスト草原の一部は石灰石の採掘によりすでに失われている。西部山地は竜ヶ鼻から南に障子ヶ岳（標高四二七・三メートル）を経て飯岳山（標高五七三・〇メートル）に至る長さ約一〇キロの山並みで、竜ヶ鼻を除いては三郡変成岩及び花崗岩からなり、森林はシイ・カシの二次林とスギ・ヒノキの造林からなる。しかし、障子ヶ岳の山頂部はかつての城址であり、ススキ・ネザサの草原になつている。南部山地は飯岳山から行橋市の御所ヶ岳や馬ヶ岳に続く低山地で花崗岩からなり、昭和の中頃まではアカマツ



写真1—7 勝山平野  
田園地帯に緑の丘陵が散在している



写真1—8 下河内から見た平尾台竜ヶ鼻  
通称「への字山」

の林であつたが現在はアカマツが枯れてシイやコナラなどの林に遷移している。この山地には元来、東北地方などに多く生育しているモクレン科のタムシバの群落があり注目される。平野は町の中央部から東方に広がっており、それは行橋平野に続く。平野部には小さな丘陵が散在してみられ、その多くが古墳や社寺林で、シイ・タブ・クスノキなどの照葉樹に覆われ、本町の植生の一つの特徴となつている。河川は長峽川の源流域にあたり、西部山地及び南部山地より流れ出て、途中で小さな支流をいくつも集めて東方に流れ、行橋市を横切つて周防灘に注ぐ。本町での川幅は行橋市に近い所で約四〇メートル、川床はツルヨシやマコモなどでほとんどの部分が埋まつている。しかし、上流には昔ながらの清流があり、ゲン

ジボタルも多く発生する。

本町は山に囲まれているものの山は低く、花崗岩地が多く、しかも傾斜が急であるため保水力に乏しい。そのために灌漑用の溜池が多数存在し、その数は大小合わせて四〇を超える。溜池には国や福岡県などの指定する絶滅危惧種をはじめ、希少な植物が多数生育している。

## 二 山地の植生

### 1 竜ヶ鼻の植生

竜ヶ鼻はカルスト台地平尾台の最南端の地域で台地の斜面は急峻な崖地である。南北に走る小さな稜線をはさんで東側は勝山町、西側は田川郡香春町、台上は北九州市小倉南区に属している。本町の最高点は標高六七〇メートルであるが台地の最高点はやや北方にあつて標高六八〇・六メートルである。台地上では三菱マテリアル東谷鉦山により石灰石の採掘が行われており、本町に属する部分もすでにかなりの面積が削り取られている。

竜ヶ鼻の上部は傾斜四〇度以上の危険な岩場で、人を寄せつけない部分も少なくない。山頂部は竜ヶ鼻台と呼ばれ、平坦でススキやネザサの草原である。斜面は標高四〇〇メートル付近まではスギ・ヒノキの人工林であり、それより上に自然林が広がる。西側の香春町に属する部分は石灰岩地に特有のイワシデを中心とする夏緑樹林であるのに対し、東側の本町側はヤブニツケ



写真1—9 竜ヶ鼻のイワシデ林  
(標高630<sub>1</sub>地点)  
イワシデは岩場に斜上して伸びている

イ、アラカシ、タブノキなどの照葉樹林になっている。

植生調査は香春町との境界になつている稜線沿いの標高六六五<sub>1</sub>から五四〇<sub>1</sub>の間、の五か所で実施した。標高六〇〇<sub>1</sub>付近まではアラカシ、タブノキ、シロダモ、シラカシ、ヤブニツケ

イなどが高木層を形成している。亜高木層の優占種はヤブツバキで、ほかにイヌガヤ、イヌガシ、カゴノキなどがあり、低木層の優占種はアオキである。標高六〇〇<sub>1</sub>より上部には、わずかな範囲であるが帯状にイワシデ林が分布している。ここではイワシデの亜高木をはじめオオコマユミ、バイカウツギ、シロバナハンショウヅル、ウラジロガシ、ヤマカシユウ、ヤマブキ、ツルマサキ、スズシロソウ、ミツバベンケイソウ、ミヤコミズなど、石灰岩との結び付きの強い好石灰植物や岩場によく育つ岩角地植物などが出現した。

### 2 仲哀山地の植生

仲哀隧道のある仲哀山地は稜線の高さは三二〇〜四〇〇メートルあまり高くはないが、町内で最も自然林の残る山地である。し